

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会 (第2回)
開 催 日 時	令和6年7月18日(木) 14時00分 開会 15時30分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場庁舎2階 第2会議室
出 席 者 氏 名	村田会長、伊藤副会長、信太委員、川添委員、 鹿野委員、岩本委員、福田委員
欠 席 者 氏 名	漆原委員、酒井委員、岩堀委員
事務局職員職氏名	竹下政策推進課長 政策統計グループ 稲場主査、鈴木主事補
議 題	1 第3期総合戦略策定に向けた方向性の検討について 2 意見交換先の候補について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会 議 資 料 の 名 称	資料1 意見書取りまとめ結果 資料2 意見交換先の候補について 参考資料 総合戦略構成
会議録の作成方針	☒ 録音データを使用した全部記録
	☐ 録音データを使用した要点記録
	☐ 要点記録

	体験型・滞在型観光の充実、観光資源の見直し、企業誘致などの課題が上りました。 以上の課題を踏まえ、基本的方向性に入れ込むべき事項として、 ○農林業・商工業については、 担い手や従業員の確保・育成の支援や助成について検討を行うこと。既存商品のブラッシュアップを行い、町内外に向け特産品や商品についての魅力を効果的に発信することで、経済の更なる活性化を目指すこと。 ○観光業については、 観光施設とつなぐ公共交通機関の整備を検討し、観光資源の見直しを行いながら、既存の観光業を発展させる又は新たな観光事業を展開すること。また、観光客や町外者が利用できる施設の整備を行い、体験型・滞在型観光を推進することで、町内観光業の活性化を目指すこと。 ○企業誘致については、 現状の把握や美幌町に訪れる又は滞在する方について分析を行うなど、企業誘致に繋がる情報収集を行い、本町の特性を PR し企業誘致に務めることで、雇用の創出やまちなかのにぎわいを作り出すこと。 以上を基本的方向性に入れ込むべき事項・キーワードの案として整理いたしました。 基本目標 1 に関する意見、基本的方向性に入れ込むべき事項について、ご説明いたしました。よろしくお願いいたします。
村田会長	事務局から基本目標 1 について課題とそれにはないする入れ込むべき事項として説明がありましたが、このほかに考えられる課題やこういう要素が必要ではないか、良い漏れたことやご質問などがありましたら、頂戴したいと思います。
福田委員	<意見交換> 上から 2 番目の意見を出させていただいたのですが、失礼な事を言っているかもしれません。ブランディングが上手ではない。と書いてありますが、そもそもブランディングって何？ということと言葉で説明することが難しく、ブランディングが上手だと思う市町村の資料を持ってきました。（清里町じゃがいも焼酎の写真） 清里町にちょこちょこ行く機会がありまして、カントリーサインにもあるようにじゃがいも焼酎の工場があり、じゃがいも焼酎が特産品になっているんですけど、パッケージがとても素敵で、調べてみたら 10 年前くらいからこの新しいデザインになったそうです。 とにかく見た目がお洒落で、焼酎やお酒に興味がない方でも、ボトル欲しさに手に取ってしまうようなデザインで、当時発売された時に私も購入した記憶があります。 町に行くと大きなポスターなどになって貼られていて、ロゴ自体もじゃがいもをモチーフに作られていて、「北海道清里町」を特産品のデザインを通じて町のイメージを他所から来た人に伝えやすい、道内外の人に伝えやすい良い例だと思いました。 近くの市町村でこういう取り組みがされている中で、美幌町はどうなんだろう。と思ひまして、おいしい調味料とかメープルシロップとかいろいろな特産品がある中で、ポスターなどでバーンと見せる伸びしろがまだあ

	るのでは。 デザインの力というのも一言で言い表せないのですが、例えば、駅にあるきてらすについて、すごく人気の施設で利用者もたくさんいますが、きてらすの看板がお洒落じゃないな。とか、きてらすの中にある案内板が古いなと感じます。利用者の中には、近隣市町村の人や帰省のついでに立ち寄る人なども多いので、お洒落だったらいいなと思ったので、意見に書かせていただきました。
村田会長	たまに、玄関のところで写真を撮っている方なども目にしますので、来た記念に写真に残しているんだと思いますが、写真を撮るのにもお洒落だったらいいですね。美幌の顔ともいえる駅ですし、もう少し華やかな感じもあっていいのかなとは思いますが。
伊藤副会長	入れ込むべき事項の中に観光業がありますが、この中にある「観光施設と繋ぐ公共交通機関」の部分は、美幌峠と女満別空港など、女満別空港間の整備という意味合いでとらえても大丈夫か。
竹下課長（事務局）	ご意見いただいた通り実際に、公共交通だけではなく民間のレンタカーだとかを使って峠へ行くという話が出てきている中で、アクセスをどうにかした方が良いでしょう。という話は、町としてもどうしていくべきか話しておりますので、この方向性を入れ込んで、5年間の戦略の期間中に何らかのアクションを起こせたらと考えております。 具体的にどことどこというのは言えませんが、現在考えておりますのは、女満別空港～美幌町～美幌峠を結ぶ公共交通機関について思っております。 以前、空港から峠までの直接便などはありましたよね。
信太委員	コロナ以前から、弟子屈町と美幌町でお金を出し合って、バスを走らせていました。 当時（平成25年くらい）は、網走バスさんが美幌から網走線という女満別空港を経由する路線を走らせていたが、女満別空港から美幌間の路線については、一昨年から利用客が少ないためカットされている。 現状公共交通機関が全くないということになる。 せっかくいろいろな観光施策を展開して、誘客しても、道内外のお客が女満別空港に着地した時に、美幌に行けない。どうやって行けばいいのか。を先につぶさないといけない課題で、観光委員会の中でも大きな課題として捉えている。 コロナあるなしに関わらず、走らせていましたが、利用客が0人の日もあり、ボランティアガイドを使って誘客してみましたが、あまり効果が見られなかった。 そもそも、美幌峠へ公共交通を使ってアクセスするお客様が少ないのは分かるのですが、今後免許返納のお客様やインバウンドのお客様が増えてくる。実際現場レベルでは増えてきたという実感がありますので、美幌峠へのアクセスがゼロというのは、美幌峠を売りにしている美幌町にとっては致命的なのではないかと思い、意見させていただきました。 もう一点、総合計画にぶら下がっている、観光振興革新戦略ビジョンの中に、重要なものとしてビジョンの中に、特産品や商品の開発・魅力アップ、体験型・滞在型観光の2つが入っていて、もうひとつ足りないのが、人材育成についてで、観光業に携わる人間が圧倒的に少ないということと、人づくりについて、観光業の方にも入れたらいいのではないかな。と思う。

竹下課長（事務局）	今回事務局案として、農林業・商工業の方に「担い手や従業員の確保・育成」について記載しておりますが、観光業にも必要になってくるということですね。
鹿野委員	入れ込むべき事項の農林業・商工業の中の「既存商品のブラッシュアップ、魅力発信」と記載がありますが、割と狭い内容になっている印象で、農林業については、もっと既存の事業を強化することが必要なもので、方向性にも書いてほしいなと思う。 狭い方向性にしていくと、施策の展開も狭いものになってしまうと思うので、農林業や商工業の事業者が、今やっているものよりボリュームを増やしていけるようにしないと、新しいところがあるばかりではないので、既存の事業者が強化できるようなものを盛り込むようなキーワードを入れて頂きたい。
村田会長	続いて、事務局より基本目標２についてご説明をお願いします。
稲場主査（事務局）	基本目標２（「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す） 続きまして、基本目標２についてご説明いたします。 皆様からの意見として、基幹産業や自衛隊駐屯地のことなど、町のことを知っているようで知らない町民がいる、人材不足・確保、若者のニーズ、町や美幌高校の魅力発信、女性が暮らしやすい町づくり、ふるさと納税の強化などの課題が上がりました。 以上の課題を踏まえ、基本的方向性に入れ込むべき事項として、 ○移住・定住については、 学生に地域及び企業を知ってもらうため、大学と地域間の交流を促進することで、雇用創出及び若者の定着を図ることや、若者のニーズを把握しそのニーズに沿った助成制度などの施策を検討すること、移住・定住者の金銭的負担の軽減を目的とした補助について検討すること、美幌高校の魅力を発信し、道内外の生徒募集を推進することで、UIJ ターンの強力推進を行うこと。 ○情報発信については、 びほろらしさというものの再認識を行い、町内外に向けて美幌町の魅力を、SNSなどを活用しながら発信を行うこと。 ○関係人口の創出・拡大については、 UIJ ターンなど将来的な移住に繋がる「関係人口」の創出・拡大を推進すること。 また、美幌町の知名度向上を期待し、ふるさと納税を強化していくことや企業との関係性を構築することで関係人口の拡大を行うなど、美幌町への人の流れを強化すること。 以上を基本的方向性に入れ込むべき事項・キーワードの案として整理いたしました。 基本目標２に関する意見、基本的方向性に入れ込むべき事項について、ご説明いたしました。よろしく願いいたします。
村田会長	事務局から基本目標２について説明がありました。

	皆様からご意見・ご質問等頂きたいと思います。 <意見交換> 移住定住の部分で、「学生に地域及び企業を知ってもらうため、大学と地域間の交流を」とあるが、この大学というのは、北見工大だとか札幌の大学などイメージはあるのか。
伊藤副会長	
竹下課長（事務局）	具体的にここというのはありませんが、今お話しにもありました北見工大とは包括連携協定を結んでおりますので、連携について考えていますし、札幌や東京にある大学との連携など、必要な所を考えていきます。 いずれにしても、学生に地域を知ってもらうということを方向性として入れるからには、北見工大のみとはならないと思いますので、どういった学校になるかはわからないですけども、目指していきたいと思っております。
川添委員	美幌高校のことになりますが、実は網走にある東京農大と平成24年に包括連携協定を結んでいて、着任した時に挨拶にいつてきたのですが、包括連携協定を結んだあとご無沙汰だったというか、美幌高校もオホーツク管内唯一の農業科を持った学校で、農大は寒冷地農場を研究するということで作られた理念があり、美幌町の基幹産業として農業を持っておりますので、連携していきましようと話してきたわけですけども、地域に残ってもらう、美幌町で学んでよかったなと思えるような施策を展開していったほしい。 本校主体で地域未来留学を進めて、道外から今の3年生で3名、2年生6名、1年生7名と人数が増えております。 何で来たのかアンケートを取ってみたのですが、自然豊かだとか、農業についてちゃんと勉強したいという声がありました。 美幌高校はこういう学校ですよディスカッションして、手上げて来てもらっているんですけど、来てよかったなと思ってもらえるような授業をしていかないと、普通科もそうなんですけど、地域をちゃんと知ってもらって、自分のことも理解するなど、ここで過ごした3年間とても充実していたなと思えば、例えば4年生大学進学したあとも、美幌町に戻ってきて貢献したいなと思ってもらえるんじゃないかと思うので、高校教育の視点からしてみたら、今の教育は学校だけで完結することは難しい。 地域の教育力を借りて、子どもは宝ですので、幼小中高と一貫した理念を決めて教育した子どもたちが将来戻ってくるといった流れを作ればよい循環で行けると思います。 後でお話ししようと思っておりますが、そういうことで言えば女性に残ってもらえることなどがキーワードになってくるかと思えます。 農林水産省では、農業女子プロジェクトというのをやっていて、民間と教育機関が繋がって進めていますので、できるのであれば高校として手を挙げてみたいと考えています。女性の生徒が入学してくれて先ほどの流れで進んでいければ、高校3年間の学びでは足りないので大学に進学し、その後戻ってきて地域の活性化に貢献してもらえれば、理想論ですが少しは人口減少や雇用の面も改善されていくのではと思います。
村田会長	美幌高校の女子生徒は今何人ぐらいいるのですか。
川添委員	大体4割くらいです。 男子の比率が高くて、地域未来留学の話もしたんですけど、寮が足りていなくて、来年全国募集をやりましようとは思っているものの、不安があり、

鹿野委員	呼んできたものの住む場所がないとか。 例えば紋別市では、町主導で寮建てますよとか、遠軽町でも町あげてやっていますよね。どんどん外から人を呼んできて、それを受け入れる体制を整えていくことが大切かなと思います。 大学の連携の部分で、美幌に就職してくれるような大学との連携が必要かと思います。北見工大は技術的な部分を専門としているので、美幌で受け入れる企業も限られてくると思います。 今年は札大のイベントに参加させていただいて、去年までは町で開催していたやつに参加してインターン生など受け入れて何人か就職してもらったりしていたんですけど、今年はやらないということで、農協単独で人の募集も兼ねて行った。 連携とは書いているんですけど、就職に繋がる様な事業が狭まることが無いようにしていただきたい。 高校の進学率ってとても高くなってきていると思うので、先ほど校長先生からもありましたが、進学しても戻ってきたくなくなるような連携をしっかりとってほしい。
竹下課長（事務局）	今回こちらで取り組んでいかなければならないのは、学生の方に地域や企業を知ってもらう。連携や協定という形でなくても、学生の皆さんに美幌町を知ってもらう様な動きを5年間の戦略の中で行っていきたいと考えております。
岩本委員	ふるさと納税の関係で、制度の良し悪しは別として、活用していくべきだなと思って意見を出させていただきました。 それぞれがバラバラにならない様、軸を決めて取り組みを進めて行くことが必要になってくると思います。
村田会長	続いて、事務局より基本目標3についてご説明をお願いします。
稲場主査（事務局）	基本目標3（このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる） 続きまして、基本目標3についてご説明いたします。 皆様からの意見として、出会いや交流の場、安心して出産や子育てできる環境、安定した生活ができる職場づくり、女性が暮らしやすいまちづくり、情報発信のあり方、教育環境について課題が上がりました。 以上の課題を踏まえ、基本的方向性に入れ込むべき事項として、 ○出会いの場・結婚までの支援については、 結婚を望む男女の希望を叶えるために交流の機会を創出し、出会いから結婚までの支援を行うこと。 ○出産・子育て支援については、 安心して子供を産み育てられるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を推進することや、より多くの人に対して実施している支援についてのPR活動を推進すること、通院に係る負担を軽減させ、安心して子供を産める環境を整えること。 ○女性が働きやすい環境づくりについては。 企業や事業者に対し、妊娠・子育てに関する休暇制度を活用するよう働きかけを行うこと。

村田会長	○柔軟な働き方の推進については、 ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、町民や事業者へ意識啓発を行い、働きながらも子育てしやすい環境づくりを推進すること。 ○教育環境の充実については、 小中一貫教育を推進し、9年間の義務教育期間を見通した切れ目のない教育と資質の高い持続可能な教育環境を確保すること。 以上を基本的方向性に入れ込むべき事項・キーワードの案として整理いたしました。 基本目標3に関する意見、基本的方向性に入れ込むべき事項について、ご説明いたしました。よろしくお願いいたします。 <意見交換> 前NHKの番組を見ていたら、職場の福利厚生でマッチングアプリを入れている会社があって、複数の会社の中でだけのマッチングアプリなので、変な人が入ってこない様に出来ているみたいで、若い人はそういう方が良いのかなと思って見ていた。あとは、健康診断でA判定があったらボーナスが出るとか、色々な福利厚生があるんだなと思った。
福田委員	小中一貫教育を推進していくということで、パブリックコメントなど今開催していると思うんですけど、周りのお母さん方とのお話の中で、とにかくどこに建つのがみんな一番気になっているところで、情報は教育委員会とかでは決まっているんですかね。
竹下課長（事務局）	美幌町の教育委員会で検討を進めて行くんですけども、現時点でどこに建てるのか。候補地はここですというのは一切決まっていなくて、今は小中一貫教育を推進していく方針を打ち出し、こういう教育をしていきたい。こういう子どもを育てていきたい。というところを皆様にお諮りをしている段階でございます。 これから、どこに建てるのか、とか1校にまとめるのか2校建てるのかなどいろいろな考え方が出てくると思うのですが、これからいろいろな議論を経て決定していくことになるかと思います。
福田委員	中身が大事だというのは分かるのですが、子どもを育てる親としては、通学のことも有るので、現実的な所に目が向いてしまう。 そういったところが、よくわからない町には来れないと思う。 ここに小中一貫校が何年に建ちますとか、そういう計画を見せて頂かないと、今いる親御さんたちも不安だし、そういう中で町外から来る人にもこれから引っ越し先として選んでもらえるのかな。という不安がある。
竹下課長（事務局）	移住してくるにしても、住む場所などの検討もありますし、今いる人も不安なもの分かる反面、とてもデリケートな話題ですので、色々な考え、ご意見が出てくると思いますので、議論に時間が掛かってしまうのだらうと思いますが、見通しが持てないのは不安という意見もおっしゃる通りだと思います。 今回の計画は、令和7年から5カ年間の計画なのですが、小中一貫校が令和13年開校予定なので、来年度には建てる規模が決まっているので、おそらく立てる場所も決まっているかと思います。 令和7年度にはある程度具体的な物が出てくるのかと思います。

村田会長	北中学校の始業式と終業式とかに見回りで行くけど、結構車で送り迎えしてもらっている生徒が多い。あれが、1校になった時、車の送迎をどうにか整理しないと大変なことになると思う。専用のバス路線が必要になるのかなとか。
鹿野委員	子供のいる家庭は、どうしても子供の送り迎えだとかでフルに働けない人が結構いて、子どもが自分で行けたり、代わりに送迎してくれたりそういうものがあれば安心して働けるのではと思う。 さっきの学校の話もそうですけど、おじいちゃんおばあちゃんの協力が今あって成り立っている部分もあると思うんですけど、これからどんどん高齢化していったって、家庭への負担も増えてくるのかなと思うので、そういったところもカバーできるような対策ができるような考えがあったらいいなと思う。
川添委員	部活動の地域移行について、美幌にこの部活がないから北見の学校行きます。とか網走の学校行きます。という状況で、部活動が地域移行したとなったら、幼小中高と町がスポーツの指導をするとなったら、例えば高校生が下の子に指導するということもできるだろうし、小さいころから見ているので継続的な指導もできると思う。 部活動の地域移行は学校現場からすると、待ったなしの状況で、紋別市はもうすでに進めているような話もある。 学校に部活動としてはないけど、地域に指導してくれる人がいるのでその部活は続けられますよということで募集しています。 今年度美校に陸上がないんですけど、陸上をやっていた子が入学してくれて、普段は少年団に参加して活動しているんですけど、高校としてはちゃんと登録して、大会の時には引率も付けますよ、ただ指導面だけは探してくださいね、と少し進んではいます。 そういった部分も含めて、部活動は非常に重要だと思っていて、ここに行けばいい指導者がいる、充実している高校へ行ってしまう子が多いので、せっかく中学生まで育てたのに町外に行ってしまうというのはもったいない。 働き方改革も進んでいて、部活動の指導を行っていると時間外が増えてしまう。先生の中にも野球専門の先生がいたりするので、部活動の地域移行が進んだとき、この人この時間いけますよとか登録をするなど整理していく準備が必要かと思う。
村田会長	美幌高校は単独で野球部が組めましたけど、何か理由とか。
川添委員	特に何かしたわけではない、選手が来てくれた。秋の大会も単独で出れます。来年の夏まではちゃんと活動できそう。道外から来てくれた子も野球をやっていて野球部に入ってくれた。
信太委員	女性が働きやすい環境づくりについて、書きぶりだとは思いますが、女性に引っ張られ過ぎないように男性の育休についても書いた方が良くないかなと思っていて、私4月に孫が生まれたんですけど、息子が稚内について、手伝いには行けなかったんですけど、たまたま育休を取れる環境にあったので、1ヶ月取得して、奥さんが助かった。と大事なんだと改めて感じて、僕らの時代は、男は休めない空気だったんですが、今は企業にもよると思いますが積極的に取得出来るようになっていくと思います。 町として、この町で産み育てたいとするならば、身寄りのないまま住も

村田会長	うかという時に、そのあたりが充実していれば、旦那さんが休んでサポートしてもらえるような保障が見えてくる。 男女問わずみたいな表現にしたらいいいのかなと思いました。 続いて、事務局より基本目標４についてご説明をお願いします。
稲場主査（事務局）	基本目標４（住み続けたいと思える生活環境を整える） 続きまして、基本目標４についてご説明いたします。 皆様からの意見として、まちづくりに関わっているという実感、意欲ある人材が活躍できる環境、職場環境や若年層の離職、健康づくりなど課題が上がりました。 以上の課題を踏まえ、基本的方向性に入れ込むべき事項として、 ○まちづくりに対する町民の意識改革については、 住民のシビックプライドの醸成を図り、町民が自分達のアイデアを提案できる環境を整備してくことでまちづくりに対する町民の意識改革を行うこと。 ○意欲ある人材が活躍できる環境づくりについては、 意欲ある人材が活躍できる環境を整備し、住民のまちづくりへの意欲向上を図ること。 ○安心して働ける環境づくりについては、 若年層の離職防止に向けた取組など、企業が行う安心して働ける環境の整備等に関する取組の支援について検討すること。 ○安心安全については、 各種施策を展開し、移住・定住人口の増加を図るとともに、空き家・空き地の活用を推進し、地域の活性化を図り、地域住民の不安や不満を解決することや、防災体制を充実させ、災害被害を最小限に抑えるなどを行い、町民が安心安全で暮らせる町を維持すること。 ○健康については、 健康づくりを推進し、健康で心穏やかに生活することができ、活力ある社会を目指すこと。 以上を基本的方向性に入れ込むべき事項・キーワードの案として整理いたしました。 基本目標４に関する意見、基本的方向性に入れ込むべき事項について、ご説明いたしました。よろしくお願いいたします。 事務局から基本目標４について説明がありました。 皆様からご意見・ご質問等頂きたいと思います。
福田委員	<意見交換> シビックプライドという言葉はだいぶ浸透しているものなのでしょうか。 注釈や分かりやすい言い換えの言葉を使うなどがあったほうが、シビックプライドと言われた時に、使う方はよく使う言葉でとてもいい意味があるというの、調べて分かったんですけど、その言葉を使うことで、距離とか壁を感じてしまう人もいるのではないかなと思いました。

竹下課長（事務局）	シビックプライドという言葉はあまり一般的ではないんですけど、他方で若者にストレートに郷土愛みたいのものを醸成というと、あまり響かないかなという思いや、シビックプライドと言われて分かる世代に届いてほしいという狙いもあって、あえて使わせていただきましたが、わからなかったら意味がないので、修正させていただきます。
村田会長	全体を通して何かある方いらっしゃいますか。
鹿野委員	外国人労働者の関係だったんですけど、日本人問わず外国人を含めた基本目標になっていると思うんですけど、どういう風に盛り込まれていくのかお聞きしたい。
竹下課長（事務局）	確かに外国人についての直接の記載はありませんが、あるとしたら雇用の面があるのかなと考えていますが、皆様に率直にお聞きしたかったことがあって、外国人労働者を積極的に雇用していくことについて、美幌町は割とアレルギーが無い方だとは思んですけど、スーパーとか行っても結構増えてきていて、まだまだ増えて行ったとき、町内会のお祭りは出来ないけど、ネパール祭りは開催できる可能性だってあり、他方でアレルギーみたいなものもあったりするのかなと。そのあたりで、行政が打ち出していくことについて、皆様のお考えをお聞きしたい。
村田会長	外国人労働者は日本において欠かせないものになって来ていて、美幌においてもそういう状況で、昔はフィリピン人がスナックにいて関わりがあったけども、今は農業などで雇用されているので話をする機会などが無いので、どういうところで働いていますよというのを広報とかで載せてあげたりして、交流の機会を少しでも持たせてあげないと、どういう人が来て何しているのか。が分からないと、不安とかも解消されていかない。好きだとか嫌いだとかの問題ではないと思う。
福田委員	広報に紹介コーナーを作ることがとてもいいなと思って、広報を見る方はとても多くて、新聞を取っていない方も多くて、オホーツクにはフリーペーパーの伝書鳩があって、それを新聞代わりに読んでいるご家庭も多いと思う。ただどのご家庭も広報は読んでいるという話を聞いていて、知っている子どもでているかなとか、図書館や博物館の情報とか、子供向けの情報を見る方が多いので、その中に外国人労働者について記事を書ければ、見てくれる方がいるはず。 今住んでいる自治会（南町東）に、外国人労働者の宿舎があって、自治会の運動会にも、外国人労働者さんも参加してお手伝いもしてくれて、ただ名前を聞くまではいかないので、予め広報などで紹介があればもっと交流できるのと思います。
竹下課長（事務局）	方向性には外国人労働者の受入れについて記載することを検討していきたいと思います。
鹿野委員	若い世代に訴えるのは、新聞もそうですけど、SNSとかスマホで見る部分で継続的に発信していく方法を取っていくべきかと思います。先日、組合員さん全戸に意見を聞いて回ったんですけど、SNSとか使ったPRが足りないよという意見も多くて、農協だけでなく町全体的にちょっと上手じゃないよねという意見もあった。

川添委員	SNSの話題が出たので、高校のPRが足りないということで、保護者と生徒に資料（HPやInstagramのQRコードを載せたチラシ）を配付した。授業を見に来て良いですよとしているんですけど、例えば道外から来ている子の親御さんは離れていて簡単に見に来ていけないので、我が子が学校で何をしているのか気になると思うので、教育活動を見てくださいというところから始めた。一日一回教員の負担にならない範囲で写真を付けて、どういう目的でやって生徒がどうだったかを簡単に載せて発信している。
村田会長	それでは、議題の2番目に移らせていただきます。
稲場主査（事務局）	議題（2）意見交換先の候補について（資料2） 続きまして、意見交換先の候補についてでございます。 資料番号2をご覧ください。 事務局で検討している意見交換先の候補（案）とアンケートや意見交換の内容について記載しております。 記載している候補先へは、これからアポイントを取りますので、あくまで予定であります。 青年団体については、役場青年部、商工会議所青年部、B-LIVEを想定しており、内容については、ほぼ同じものとなっており、商工会議所青年部には、事前に提出いただいた意見でありました、「町議会議員になるとしたら何が一番の障害か」ということを聞く予定でございます。 子育て世帯につきましては、藤幼稚園に通う親御さんにお話を伺いたいと考えており、主に美幌町の住む環境や子育てに関連することについて聞く予定でございます。 事前に提出いただいた意見に、「移住者の意見も参考に」とありましたので、KITENで7/27（土）に移住者を対象としたイベントが開催予定ですので、そのイベントに参加し、町民では気付きにくい魅力などについて聞いてきます。 女性団体についてですが、自治会連合会女性部会と農協女性部へアンケートを配付し、主に美幌町の住む環境などについて聞く予定でございます。 以上、意見交換先の候補についてご説明いたしました。 意見交換の内容に関し、「このような内容も聞いたら良いのではないか」という意見がございましたら、参考にさせていただきたいと思います。 よろしくお願いいたします。 <意見交換> いつぐらいまで意見交換をやるのか。
村田会長	
竹下課長（事務局）	8月末までです。
川添委員	できれば、高校生の意見を聞く機会を作って頂きたい。移住者であれば地域未来留学の子たちも当てはまる。
竹下課長（事務局）	8月は夏休み期間になりますが、ご対応いただけるのでしょうか。

川添委員	今、一人一台タブレットを持っていますので、電子媒体さえあれば対応が可能になってきます。
竹下課長（事務局）	ご相談させていただければと思います。
鹿野委員	農協青年部とかは入れる予定はないのですか。
稲場主査（事務局）	繁忙期なのでお忙しいのかなと思って。8月中にすべてを終わらせる予定だったので、ちょうど繁忙期とかぶってしまうので考慮させていただきました。
鹿野委員	農業者専用のコネクトというものもあったりするので、大事な事なので回答するよう言うことも可能です。
竹下課長（事務局）	ご相談させていただければと思います。
福田委員	幼稚園は藤幼稚園のみなのですか。大谷幼稚園とか。
竹下課長（事務局）	うちの鈴木が娘を藤幼稚園に通わせていて話がしやすいということで。
福田委員	一応大谷のPTAをやらせていただいているので、もしよろしければ。
竹下課長（事務局）	お母さん方はお忙しいと思うので、アンケートより対面の方が良いかなと考えていて、ご都合付くようであればぜひ意見交換をさせていただきたい思います。
村田会長	内容的には大丈夫ですか。あまり多くなってもあれだとは思いますが。 最後に全体を通して何かある方いらっしゃいますか。 (特に無し) なければ、事務局から事務連絡があります。
稲場主査（事務局）	○事務連絡 次回の会議開催は9月下旬～10月下旬を予定しています。 日程調整については、9月上旬頃、文書を郵送いたしますので、ご回答いただければと思います。 第3回の会議の内容については、7月から8月にかけて実施する意見交換等を通して、方向性の検討に係る意見をさらに収集していきますが、今回会議で議論しました結果と青年団体等から出た意見を盛り込み、課題や基本的方向性、施策等を整理した事務局（案）を作り、皆様からご意見を頂きたいと考えております。 よろしくお願いいたします。
竹下課長（事務局）	追加ですが、もし後から思いついたことや周りの方のご意見などありましたら、8月中まででしたら積極的に受付しておりますので、お電話などでも構いませんので、よろしくお願いいたします。
村田会長	以上で本日予定されている会議の内容については全て終了しました。皆様お疲れ様でした。 【閉会】